俳句

大津俳句会

蒲公英（たんぽぽ）を解放したる日差しかな　井芹眞一郎

駆け寄りし少女の髪や風光る　秋山　恵

草陰に二人静かの出揃ひし　市原　初女

新庁舎つつじの花に囲まれて　大塚喜久子

春の川音も流れもやはらかく　佐賀　久子

たんぽぽの続く歩道やゆうまぐれ　松尾　昭雅

母屋（おもや）から桑の音する蚕棚（かいこだな）　岡崎　浩子

ゆきずりに貫ふ筍（たけのこ）ぶら下げて　佐澤　俊子

俳句

つのはな句会

椅子一つ春雨のなか上高地　梅木トキエ

ぼた餅をキミと食した春の宵　塚本　洋子

納得のいかぬ献立目刺し焼く　榮田しのぶ

パソコンの字に誤字増える目借時　志賀　孝子

さくらさくら駅に小さな忘れ物　田上　公代

独り居の庭に春呼ぶ群雀　木庭　杏子

連帯の証を刻み街は春　上杉　波

春の魔物水惑星をもてあそぶ　矢嶋　道子

子等達の卒業記念樹花盛り　水野　春子

短歌

大津短歌会

挨拶の男は口笛吹きて行く吾はスキップしながら行こう　坂本　杲子

椿咲き白木蓮の花開く風の光りて春の訪ずる　鞍　岳志

徒然に思い煩う吾がレシピ歩む人生此れも足跡（そくせき）　管野　静

冬空に淡紫にてそそり立つ阿蘇の五岳の偉大な姿　豊岡ミツル

老境の峠に来しとゆう友と十五夜仰ぐしみじみと冬　吉永　恵子

春哀し花に香もなく色も無し悪鬼の如き戦は止まず　小平　善行